

第21回通信衛星システム国際会議(AIAA-ICSSC-21)
受賞スピーチ

三菱電機(株)顧問
植田 剛夫

本日第21回ICSSCの場で、このAIAA-JFSCアワードを受賞致しますことは、大変光栄の至りでございます。

この受賞は私個人に与えられたものでなく、我が国の衛星通信技術および事業の確立のために私と共に働いてこられた、宇宙通信(株)、(株)エム・シー・シー、三菱電機(株)、三菱商事(株)の各社の関係者各位に対して与えられたものと理解しております。あわせてこの機会をお借り致しまして、私どもの仕事を支え、導いて下さった、顧客や政府関連機関の各位、国内外の多くの友人達に心からの感謝をささげたいと思いません。

私共は1985年に衛星通信事業に着手した折り、この新しい事業を、当時の既存の事業者とは違ったユニークなものにしたいとの方針のもとに進めました。

第一に考えたことは、衛星通信を国民全体に直結し、貢献できるものにしたいということでした。

現在ならば、これは衛星放送だろうと思います。ところが、当時は政府の規制により、我が国では通信事業者が放送を行うことは許されていなかったのです。当時は実に多くの規制がありました。

そこで、私共は、テレビ局が日本中どこからでも、いつでもニュース素材を伝送できるSNG(Satellite News Gathering)システムを導入を計画しました。

これは、各テレビ局にとっては大きな変革であり、大半のテレビ局が私共のシステムを採用して下さいました。

第二のユニークな点は、国や国民の安全・安心といった分野を考えたことです。

国の安全保障についていえば、これを宇宙と結びつけて議論することは、当時の日本では政治的理由からのタブーとされておりましたので、まさにチャレンジだったように思います。

最初のチャレンジは、防衛庁殿むけに X バンドシステムを提供すること、二番目のチャレンジは日本中をカバーする約4,000のVSAT局により、Kuバンドの地方自治体

ネットワークを作ることでした。この後者のシステムは10,000局のVSATから構成される e-Government のシステムへ発展、拡張されようとしています。

どちらのシステムも国と国民の安全・安心のために、大きな貢献ができたと考えております。

第三のユニークな点は、たとえその時点で確立していなくとも、近い将来に大きく発展する可能性がある我が国独自のユニークな技術を取り入れようとしたことです。

これが Ka バンドの採用でした。おそらく、私共が 1989 年に純商用の Ka バンドトランスポンダのサービスを始めたのは、世界最初であったでしょう。

今やこれは、近い将来の Ka バンドによるブロードバンドサービスのために、必須の技術となっています。

本日、私共のチームがこのアワードを受賞したことは、当時の私共の技術・事業両面のアプローチが適当であり、かつ成功であったことが認められたこととして、大変名誉に、有難く思うわけでございます。私は一緒に仕事をして参ったチームメンバーの成果を大変誇りに思いますし、今後さらにユーザに真に喜んで頂ける技術、アプリケーションを追求して参りたいと存じます。

最後に、衛星通信の将来について、ひとつだけコメントをさせて頂ければと思います。

現在、衛星通信の将来について、あまりに楽観的な見通しと、あまりに悲観的な見通しの両方があるように感じております。

私の考えでは、衛星通信の将来は明るいと思います。ただしこれは、「我々衛星通信関係者が応用面、技術面、さらにコスト面でのブレイクスルーを目指してたゆまぬ努力を続け、現在衛星通信に必ずしも興味や関心を持っていない多くのユーザの方達の要求に真に応えられる」ことが前提です。

今後さらに衛星通信の将来のために、ささやかでも貢献が出来ることを念じております。

ご清聴まことに有難うございました。